

問 電気は足りる、再稼働中止求めよ

答 原子力発電は最大限活用が必要



おおなみえこ 議員
大 名 美 恵 子

問 中央制御室内火災の最新情報はあるのか。

答 シェアバルブの作動試験作業に係る事実関係の確認、作業関係者や協力会社のコミュニケーション不足、作業時のリスクマネジメントのガイドライン運用の不十分さなどの要因が積み重なった結果、火災に至ったと認識している。

問 ヒューズ容量の変更はなぜ必要だったのか。10アンペアヒューズの通電が長時間になったのはなぜか。

答 シェアバルブの作動試験に先立ち、協力会社から原電に対して

「溶断対応のための大容量ヒューズへの変更」の提案があったが、関係者間で通電時間管理に係る情報共有が十分でなかったことが原因と聞いている。

問 村長は「報告を待つ」のではなく、「信頼に欠ける」と明言し、

東海第二が動かずとも電気は足りるとの認識を深め、今すぐ再稼働の中止を求めよ。

答 温室効果ガス削減のためには脱炭素の推進は欠かせない。従って、原子力発電は最大限活用が必要。



山田村長から日本原子力発電株取締役社長に安全管理の徹底を要請

問 再稼働のメリット、デメリットは

答 利点は交付金など、難点はリスク



あべこうし 議員
阿 部 功 志

問 きっかけが自然災害だろうと原発事故は人災。東海第二原発について、「稼働するメリットが事故災害で被るデメリットを大きくしのぐ」という論拠が示され、それを基に村民との合意形成がなされるのが基本条件。

答 税金や交付金は大きい。村民の一定数が原電やその関連企業に勤務しているし、地域経済を支えている。一方でリスクがあるため国は事業者に安全対策を、自治体に防災対策を求めている認識だが明確に示すことは困難。

問 雑な答弁。メリット

トがデメリットをしのぐ説明ができないのはデメリットをしのぐメリットがないからだ。避難弱者の存在を村長はどう捉えているか。

答 施設敷地緊急事態になったら避難を開始する。健康リスクのある場合は施設で屋内退避する。個別避難計画を策定して支援する。

問 メリット・デメリットを分析・整理して村民に示すことは。村民に直接再稼働の是非を問うことは考えていない。利点・難点を示すことは困難。



最近の東海第二原発（6月17日撮影）